

群 教 セ	G09 - 01
	平22.242集

# 積極的にコミュニケーションを図ろうとする 態度をはぐくむ英語活動の工夫

— 「わくわく聞いてTRY！」活動を段階的に取り入れて —

長期研修員 齋藤 恵美

## 《研究の概要》

本研究は、英語活動において、児童が人とかわることや英語で思いを伝えることに自信をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度をはぐくむことを目指したものである。そこで、児童が英語に慣れ親しみ、思いを伝え合うことの楽しさや喜びを実感するために「じっくり聞く」「言い慣れる」「思いを伝え合う」といった一連のねらいをもつ「わくわく聞いてTRY！」活動を各過程に段階的に取り入れ、実践を行った。

**キーワード** 【外国語教育 コミュニケーション 「わくわく聞いてTRY！」活動 段階的】

## I 主題設定の理由

平成20年3月に小学校学習指導要領が改訂され、第5学年及び第6学年に「外国語活動」が新設された。目標は『外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。』である。また、県の学校教育の指針（平成22年度）でも、小学校英語活動の指導の重点として「コミュニケーションへの積極的な態度の育成」が示されているように、コミュニケーション能力を育成するため、英語を通じて、コミュニケーションに対する積極性を身に付けさせる指導の充実が求められている。

協力校の児童の様子を見ると、英語活動は楽しいと感じている児童がいる一方、表現することに自信がもてなかったり、間違ふことを気にして思いを口に出せなかったりする児童もいる。また、思いを伝えたい気持ちはあるが、恥ずかしさから活動が中断してしまう場面もしばしば見られる。このことは、児童が英語に慣れ親しまないうちに表現する活動へと進んでしまったり、相手の思いをしっかり聞き、認めてあげるような体験を伴った活動が十分にされていなかったりしたためではないかと考える。

これらの実態から、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度をはぐくむためには、人とかわることや英語で思いを伝えることへの自信をもたせることが必要であると考えた。そのためには、柔軟な適応力をもつと考えられる児童期に、楽しみながら英語に触れさせ、その言葉や表現を聞いたり話したりしながら思いを伝え合う活動を体験させることが大切であると考えた。しかも、この英語に慣れ親しむ活動は、段階を踏んで少しずつ体験させていくことが有効であると思われる。英語に触れることは楽しいという思いや人前で大きな声で言うことも「恥ずかしくない」という成功体験、自分の思いを周囲の人に受け入れてもらえたという受容体験を少しずつ蓄積させることができれば、その思いはやがて「相手の思いを聞いてあげたい」「もっと英語で思いを伝えたい」という動機付けになり、人とかわることや英語で思いを伝えることへの喜びや自信へとつながっていくであろうと思われる。

そこで、本研究では「わくわく聞いてTRY！」活動という、児童が英語に慣れ親しんで思いを伝え合う活動を段階的に取り入れることを考えた。これらの活動を体験させることにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度をはぐくむことができると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

英語活動において、「わくわく聞いてTRY！」活動を段階的に取り入れることにより、英語に慣れ親しんで思いを伝え合い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度をはぐくむことができることを実践を通して明らかにする。

### Ⅲ 研究の見通し

- 1 「慣れる」過程で、ゲームやクイズなどに、英語を聞き比べたり、聞いた音声を基に反応したりする「わくわく聞いてTRY！」活動①を取り入れることにより、英語の音声やリズムに興味をもち、楽しみながら、一人一人がじっくり相手の言うことを聞き取ろうとするであろう。
- 2 「深める」過程で、聞いたり伝えたりしながら情報をやりとりする「わくわく聞いてTRY！」活動②を取り入れることにより、英語の意味を推測し、聞き取った英語を使いながら、自分の言いたいことを自信をもって伝えようとするであろう。
- 3 「広げる」過程で、言い慣れた英語を選んで使い、互いを認め合いながら思いを伝え合う「わくわく聞いてTRY！」活動③を取り入れることにより、一人一人が英語に慣れ親しみ、思いを伝え合うことの楽しさや喜びを実感しながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとするであろう。

### Ⅳ 研究の内容

#### 1 基本的な考え方

##### (1) 積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童について

「コミュニケーション」とは、言葉のみならず身ぶり手ぶりを交えて、感情や意志を伝え、理解したり、情報を交換したりするなど、聞き手と話し手の双方向で意味のやりとりを行うことである。このことから、英語活動における積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童とは、一方的に自分の思いを伝えるのではなく、お互いの理解を深めるために、言葉やその他の手段を使って相手の言うことを理解しようと注意深く聞いて、自分の思いを相手に伝えようとする児童であると考えられる。

##### (2) 「わくわく聞いてTRY！」活動を段階的に取り入れることについて

「わくわく聞いてTRY！」活動とは、児童が無理なく英語に慣れ親しむことを基本とし、「じっくり聞く」「言い慣れる」「思いを伝え合う」といったねらいを達成するために各時間ごとに取り入れる、いくつかの具体的な活動内容を総称したものである。具体的には、児童が活動に興味をもてるように、英語の音声や表現を繰り返し聞いたり、聞き取った英語を発話したり、言い慣れた表現を使って思いを伝え合ったりすることである。

英語活動においては、聞いた英語を先入観なく素直に受け入れることができる児童の柔軟な適応力を意識しながら、活動を進めていくことが大切であると考えられる。特に高学年は、知的好奇心の高まりがみられる時期である。単純な繰り返しや発話ではなく、まず音声や表現をじっくり聞かせることにより、言葉の面白さや豊かさに気付くことができる。また、英語が「聞き取れた」「言えた」という成功体験や、自分の言うことを相手が聞いて「分かってくれた」「言葉を返してくれた」という受容体験をすることで、人とかかわることや英語で思いを伝えることへの喜びや自信へとつながっていくであろうと考える。

児童の発達段階を考えながら、早急に発話を求めず、英語に慣れ親しむため、「じっくり聞く」「聞いた英語を発話する」「英語を使って思いを伝え合う」といったねらいをもつ一連の活動内容を体験させ、無理なく表現に馴染ませていくことを「段階的に」ととらえた。

この考えを踏まえ、児童が英語に慣れ親しんで思いを伝え合うことをねらいとした一連の活動を3つの「わくわく聞いてTRY！」活動として、それぞれの過程に位置付けた。

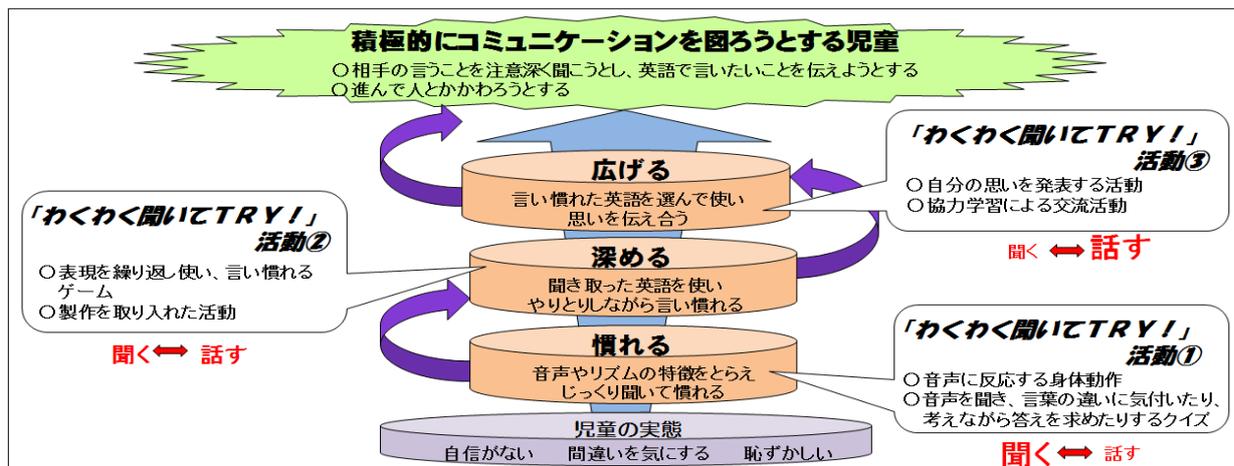
各過程のねらいに迫るために1時間の授業に「わくわく聞いてTRY！」活動を取り入れる(表1)。それらを個々に独立して行うのではなく、前時に行った活動内容を発展させたものを次の「わくわく聞いてTRY！」活動として取り入れ繰り返し積み上げていくことで、無理なく自然に英語に触れることができる。と考える。

これらの活動を段階的に取り入れることは、英語に楽しみながら慣れ親しみ、人とかかわろうとする意欲を高め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことに有効である。と考える。

表1 「わくわく聞いてTRY！」活動のねらいと内容

進	活動	時	活動のねらい	内 容
慣れる	「わくわく聞いてTRY！」活動①	1	音声やリズムの特徴をとらえ、じっくり聞いて慣れる。	○ 音声をじっくり聞いて、反応する身体動作 (第1時)
		2		○ 音声をじっくり聞いて、言葉の違いに気付いたり、考えながら答えを求めたりするクイズ (第1時・第2時)
深める	「わくわく聞いてTRY！」活動②	3	聞き取った英語を使い、やりとりしながら言い慣れる。	○ 表現を繰り返し使い、言い慣れるゲーム (第3時・第4時)
		4		○ 自分の思いを基に制作を取り入れた活動 (第4時)
広げる	「わくわく聞いてTRY！」活動③	5	言い慣れた英語を選んで使い、思いを伝え合う。	○ 具体物を提示しながら自分の思いを伝える発表活動 ○ 発表内容に関する情報を交換しながら、互いの理解をより深める協同学習を中心とした交流活動

2 研究構想図



V 研究の計画と方法

1 実践計画

対 象	小学校第6学年
単 元 名	自分の一日を紹介しよう (英語ノート2 Lesson 7)
期 間	9月29日～10月27日
授 業 者	長期研修員 齋藤 恵美 ALT ジョン・ドンベック

2 抽出児童

A	「発音が難しい」「何と言ったらいいかわからない」という思いをもち、活動に対して消極的である。音声や表現を繰り返し聞くゲームやクイズなどの活動を体験し、英語に触れることを通し、楽しみながらコミュニケーションを図ろうとするようにしていきたい。
B	活動は楽しいと感じているが、「間違えたら恥ずかしい」という思いが強く、自分から進んで声をかけて取り組むことが少ない。お互いを認め合う活動を体験することを通して、慣れ親しんだ英語を使って自信をもって自分の思いを伝え、積極的にコミュニケーションを図ろうとするようにしていきたい。

### 3 検証計画

検証項目	検証の視点	検証の方法
見通し1	ゲームやクイズなどに、英語を聞き比べたり、聞いた音声を基に反応したりする「わくわく聞いてTRY！」活動①を取り入れることは、英語の音声やリズムに興味をもち、楽しみながら、一人一人がじっくり相手の言うことを聞き取ろうとする上で有効であったか。	活動の観察 授業記録ビデオ 振り返りカード 事前・事後アンケート
見通し2	聞いたり伝えたりしながら情報をやりとりする「わくわく聞いてTRY！」活動②を取り入れることは、英語の意味を推測し、聞き取った英語を使いながら、自分の言いたいことを自信をもって伝えようとする上で有効であったか。	活動の観察 授業記録ビデオ 振り返りカード 事前・事後アンケート
見通し3	言い慣れた英語を選んで使い、互いを認め合いながら思いを伝え合う「わくわく聞いてTRY！」活動③を取り入れることは、一人一人が英語に慣れ親しみ、思いを伝え合うことの楽しさや喜びを実感しながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする上で有効であったか。	活動の観察 授業記録ビデオ メッセージカード 振り返りカード 事後アンケート

### 4 単元の目標及び評価規準

目標	動作と時刻の表現に触れながら、友達の一日の様子について聞き取ったり、自分の一日を紹介したりする。		
言語材料	What time ~? It's ~. I ~ at ~. one ~ sixty 動作の表現 (get up, eat breakfast, take a bath, go to bed など)		
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
単元の評価規準	一日の生活を紹介し合う活動を通し、相手の言うことを聞き取ったり、自分の思いを伝えたりしながら、進んで人とかかわろうとしている。	一日の生活を紹介し合うために、時刻や動作の表現を聞いたり使ったりする。	時差があることを知るとともに、動作や時刻を表す表現の音声やリズムの特徴に気付いている。

### 5 指導計画(全5時間)

●は、具体的な「わくわく聞いてTRY！」活動、( )は、具体的な活動内容

過程	時	学 習 活 動	研究上の手だて
		【ねらい】 音声やリズムの特徴をとらえ、じっくり聞いて慣れる。	
慣 れ る	1	<p>時刻の表現をじっくり聞く活動を通し、音声やリズムの特徴をとらえるとともに、世界には時差があることに気付く。</p> <p>●「何時かな？ジェスチャー・クイズ」をする。 (音声聞き、反応する身体動作)</p> <p>○世界の国々の時刻を聞き取る。</p> <p>●「聞いた時刻はどこ国？クイズ」をする。 (音声聞き、考える活動)</p>	<p>○聞いた時刻を確認するように、視覚教材を活用する。また、時刻の表現のリズムを感じながら聞くように、身体動作を取り入れる。</p> <p>○楽しく聞く活動に取り組めるように時差の一覧表を基に、聞いた時刻がどこの国かをグループで探すクイズを取り入れる。</p>
	2	<p>児童に身近な人の一日の生活の様子をじっくり聞く活動を通し、動作や時刻の表現を聞き取る。</p> <p>●「記憶をたどって世界の時刻クイズ」をする。 (音声聞き、言葉の違いに気付く活動)</p> <p>○動作の表現を聞き、意味を確認する。</p> <p>●「先生の生活あてっこクイズ」をする。 (聞いた音声から内容を聞き取る活動)</p>	<p>○じっくり時刻の表現を聞き、聞き取れた喜びが活動の意欲につながるように、聞いた時刻の記憶を基に時差を確認するカードクイズを取り入れる。</p> <p>○興味をもってじっくり聞くことができるように、児童にとって身近な人の動作時刻(起床、朝食、入浴、就寝)をそれぞれ予想し、一日の行動を聞き取る活動を取り入れる。</p>

【ねらい】		
聞き取った英語を使い、やりとりしながら言い慣れる。		
深 め る	<p>ゲームやクイズを通し、動作や時刻の表現を繰り返し使いながら、言い慣れる。</p> <p>●「インスピレーション・ゲーム」をする。 (表現を声に出して言い慣れる活動)</p> <p>○動作と時刻の表現を聞き、一日の生活についての表現方法を理解する。</p> <p>●「神経衰弱(動作と時刻)」をする。 (表現を繰り返し使い、言い慣れる活動)</p>	<p>○動作の表現を声に出して言い慣れるように、動作絵カードを基に表現を繰り返し使うゲームを取り入れる。</p> <p>○動作や時刻の表現を繰り返し使い、言い慣れるように、動作絵カードと時刻カードを組み合わせ、表現する活動を取り入れる。</p>
	<p>動作や時刻の表現を使いながら、やりとりする活動を通し、自分の一日の生活表を作る。</p> <p>○「My Daily Routine」のチャンツをする。</p> <p>●「自分の一日すごろく」をする。 (自分の言いたい表現を使い、言い慣れる活動)</p> <p>●「必要な動作絵カードを集めよう！」をする。 (言いたい表現を使い、やりとりしながら製作する活動)</p>	<p>○動作や時刻の表現を選び、自分の言いたい表現を繰り返し使うゲーム活動を取り入れる。</p> <p>○自分に必要な動作絵カードを児童同士でやりとりしながら集め、「一日の生活表」を作成する活動を取り入れる。</p>
【ねらい】		
言い慣れた英語を選んで使い、思いを伝え合う。		
広 げ る	<p>自分の一日の生活の様子を発表し合う活動を通し、表現に慣れ親しむとともに、進んで人とかわり合いながら、互いの理解を深める。</p> <p>○「My Daily Routine」のチャンツをする。</p> <p>●「自分の一日を発表しよう！」をする。 (自分の思いを発表する活動)</p> <p>●「だれの一日のことを言っているのかな？クイズ」をする。 (協同学習を中心とした交流活動)</p>	<p>○相手を意識しながら伝えたいことを言ったり相手の言っていることをしっかり聞いたりしながら、互いを認め合えるように、自分の一日を紹介する発表活動を取り入れる。また、思いを伝え合うよさをさらに実感できるように、メッセージカードを使って発表の感想を伝え合う活動を取り入れる。</p> <p>○グループごとに、集めた情報をもとに話し合いながら、互いの理解をより深めていけるように、協同学習を中心とした交流活動を取り入れる。</p>

## VI 研究の結果と考察

### 1 英語を聞き比べたり、聞いた音声を基に反応したりする「わくわく聞いてTRY！」活動①の有効性について

#### (1) 結果

第1時に、音声を聞き、反応する活動として『何時かな？ジェスチャー・クイズ』を行った。キーボードから流れる拍に合わせて“It's ~ .”とALTが数字を強調しながら言った時刻を聞き取り、児童は両腕で時計の長針や短針を表現した(図1)。児童が無理なく身体動作に取り組めるように、徐々に時刻の表現を複雑にしていった。また、さらに楽しく取り組めるように、個々の動作からペアで向かい合い、聞いた時刻を動作で表現する活動を取り入れた(図2)。ペアの活動では、児童の一方は、時計の表示とは反対の動作をしなければならないという難しさもあったが、聞き取った時刻を基に瞬時に反応していた。振り返りカードには、「ジェスチャーをするとき、最初は恥ずかしかったけれど、だんだん楽しくできた」「ジェスチャーをしながら、楽しく



図1 聞いた時刻を動作する児童



図2 ペアで動作する児童

時刻の表現を聞いた」「友達とペアになったとき、ジェスチャーが合うと嬉しかった」などの記述があった。

次に、音声を聞き、考える活動として『聞いた時刻はどここの国？クイズ』を行った。日本時間を基準にした世界各国の時差の一覧表を基に、ALTが繰り返しゆっくり言った時刻を聞き取り、どこの国かを探し当てていく。グループごとに予想した国名をホワイトボードに書き、他のグループに提示し合うことで、他の児童の考えを視覚的にとらえ、互いに認め合いながら楽しく活動に取り組んでいた。また、聞いた時刻から日本との時差を求め、世界の国を探すという活動は、聞いたことを基に児童同士の活発な意見交換が行われるなど（図3）、児童の好奇心を高め、じっくりと時刻の表現を聞き取ろうとする様子が見られた。抽出児童Aは、「どの国がどんな時刻なのかを一生懸命聞こうとした」、抽出児童Bは「グループで相談して国を探す時、進んで自分の考えを言うことができた」という感想をそれぞれの振り返りカードに記述していた。



図3 聞いた時刻を基に国を探す児童

第2時では、音声を聞き、言葉の違いに気付く活動として『記憶をたどって世界の時刻クイズ』を行った。児童が“What time is it?”とALTに尋ね、“It’s ~in ~.”と時刻と国名を強調しながら言った表現を聞き取り、児童は世界地図の各国の上に時刻カードを置いていった（図4）。活動が進むにつれて、さらに集中してじっくりと聞こうとする様子が見られた。また、世界の国名や地図上での位置など社会科との関連を図った活動内容に、「英語だとロシアはラシヤって聞こえた」「西に行くほど時刻が遅くなる」などの発言があり、国名の発音の違いに気付いたり、時差について興味を示したりしながら、意欲的に活動に取り組んでいた。



図4 世界地図上に時刻カードを置く児童

さらに、音声から内容を聞き取る活動として『先生の生活あてっこクイズ』を行った。児童に身近な教師数名が動作する時刻をグループ内で相談し合って予想し、インタビューのやりとりを聞きながら確認した。児童にとって身近な人を題材にした活動にどの児童も興味を示し、最後まで集中して聞く様子が見られた（図5）。また、ビデオに映った教師のインタビューの内容に瞬時に反応して歓声や落胆、驚きの声をあげていた。



図5 インタビュービデオを視聴する児童

## (2) 考察

抽出児童Aは、事前のアンケートでは、聞くことに不安を感じている記述をしていた。しかし、「わくわく聞いてTRY！」活動①を体験したことにより、英語を聞くことに抵抗感をもたず、楽しみながら聞くことができたことが振り返りカードの記述から分かった（図6）。また、抽出児童Bの事前アンケート（図7）では、「聞く」活動に対して、単にゲームをすることが楽しいと答えていた。しかし、社会科との関連を図るなどして児童の好奇心を高めたり、音声を聞いて考えたりする活動を体験したことにより、聞くことに対する意欲がさらに高まり、進んで聞こうとする様子が振り返りカードの記述から分かった。

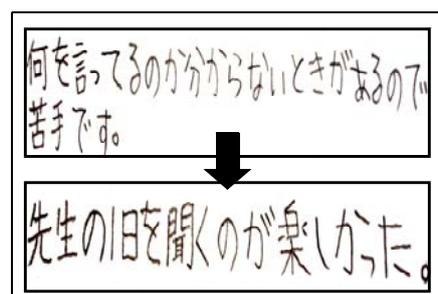


図6 抽出児童Aの変容

「聞く活動」に関する事前・事後アンケート調査を比較し

た結果（図8）、ゲームやクイズなどで英語を聞き比べたり、聞いた音声を基に反応したりする活動を取り入れ、聞いたことをジェスチャーで表現することも楽しい活動に変えていけば、児童は無理なく音声やリズムに聞き慣れていくことが分かった。また、無理に発話を強いるのではなく、聞くことを中心にした活動を通して「何を言っているか分かった」という感想をもった児童が事後では75%と事前に比べ、高い数値となった。これは、「先生の生活あてっこクイズ」で楽しみながら、動作の表現を聞き取り、インタビューの内容を理解したことも大きな要因として考えられる。このことにより、聞いた英語の内容が分かることが他の表現に興味をもったり、自分から注意深く聞こうとしたりすることにつながったと考える。

しかし、時刻の表現を聞き取る活動の際、ためらいながら動作をしたり、他の児童の様子を見ながら時刻カードを置いたりする児童の姿も見られた。それらの児童は、アンケートで「何を言っているか分かった」と答えた児童に含まれていないことも考えられる。そこで、音声やリズムに反応する活動を継続して体験することや、英語を聞いて内容を想像したり、意味を推測したりできるように視覚的な支援を加えながら、繰り返し表現に触れることが必要であることが分かった。そうすることで、児童は英語の音声やリズムに興味をもちながら、相手の言うことを聞き取ろうとするようになると思われる。

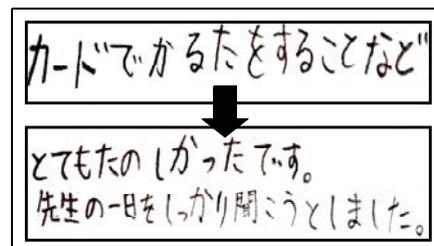


図7 抽出児童Bの変容

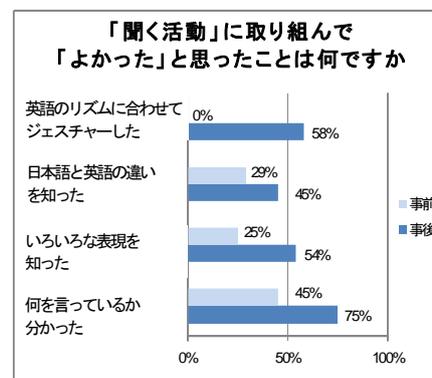


図8 アンケート結果

## 2 聞いたり伝えたりしながら情報をやりとりする「わくわく聞いてTRY！」活動②の有効性について

### (1) 結果

第3時では、これまでの活動で聞き取ってきた表現を声に出して言い慣れる活動として『インスピレーション・ゲーム』を行った。児童は、4枚の動作絵カードから1枚を選び、その表現を英語で言いながらペアでお互いに出し合った（図9）。初めは声が小さくお互いに遠慮がちであったが、カードが数組揃い始めると徐々に熱も入り、間違うことを気にせず、楽しそうに言う姿が見られた。また、振り返りカードには「絵カードを見ながら、何て言ったらよいか考えた」「絵カードがあって言いやすかった」など、絵カードを活用しながら聞いたり、言ったりしていた様子が記述されていた。さらに、相手が次にどんなカードを出すか、相手の表情を観察したり、相手の心理を読み取ろうとしたりしながら、相手に関心をもって楽しく取り組む姿も見られた。



図9 『インスピレーション・ゲーム』の様子

次に、表現を繰り返し使い、言い慣れる活動として『神経衰弱（動作と時刻）』を行った（図10）。児童はこれまでに、時刻やそれぞれの動作の表現に触れてきた。そこで、神経衰弱の要領でそれらの表現を組み合わせ、自分の生活について言う活動に取り組んだ。初めは、どのように言ったらよいかとまどう児童の姿も見られた。しかし、2種類のカードを手がかりに繰り返し表現していくうちに、自分の生活について、徐々に動作や時刻の表現を使って言うことに慣れていった。



図10 『神経衰弱（動作と時刻）』の様子

第4時では、自分の言いたい表現を使い、言い慣れる活動として『自分の一日すごろく』を行った。「四つの動作の絵カード」「四つの動作から一つを選ぶFreeカード」「自分の言いたい動作に挑戦するチャレンジカード」の計20枚を並べる順番やすごろくのコースをグループで話し合い、自由に決めた。その後、出た目で止まったカードの動作とその時刻の表現を自分の生活に合わせ、繰り返した。児童の振り返りカードには、「同じカードが続いたので、『寝る』の言い方が自然に出てきた」「自分の言いたい動作を言えるように、友達に聞きながら頑張った」「言い方が分からなかった時、友達が優しく教えてくれた」などの記述があり、周りの友達とかかわりながら、間違うことを気にせず、楽しんで言う様子が見られた。

さらに、自分の言いたい表現を使い、やりとりしながら製作する活動として『必要な動作絵カードを集めよう!』を行った。児童は、最終的に『一日の生活表を作成する』という『めあて』を持ち、児童同士でやりとりをしながら、『伝えたい自分の一日の動作』の絵カードを集めた。以前は、分からない表現や言い方を忘れてしまった表現があってもそのままにしてしまい、「間違ったら恥ずかしい」「言い方が分からない」と表現することに自信のない児童もいた。しかし、やりとりをする中で『一日の生活表を作成する』という『めあて』を達成しようと、楽しみながら繰り返し表現を使ったり、分からない表現は児童同士で教え合ったりしながら、自分の言いたい表現を何とか英語で伝えようとしていた。

## (2) 考察

「話す活動」に関する事前・事後アンケート調査を比較した結果、一番変化の大きかった項目は「言いたい表現を英語で言えた」であった(図11)。これは、「これを言いたい」という児童の思いを大切にしながら、言い慣れる活動を行ったからであると考えられる。また、抽出児童Aの振り返りカードの感想(図12)からは、相手が必要とする動作絵カードを渡せるように、相手の言うことを注意深く聞こうとしていたことが分かった。そして、自信をもって自分の言いたいことを伝え、進んでやりとりできたと言える。抽出児童Bの感想(図13)からは、分かる喜びが自信となり、慣れ親しんだ英語を使い、楽しんでやりとりできたことが分かった。さらに、他の児童の振り返りカードの感想(図14)には、恥ずかしがらずに言えたり、自分から進んで英語を話せるようになったりした記述もあった。その理由として、言い方の分からない表現は互いに教え合い、間違っても恥ずかしくないと思う気持ちが言うことに対する自信につながったからであると考えられる。これらの結果から、ゲームやクイズなどで楽しみながら無理なく表現を使うことにより、言い慣れていった様子が見られた。それが、徐々に自信となり、「もっといろいろな表現を使えるようになりたい」「友達と英語で話したい」という意欲が高まり、進んで言い表現を英語で言おうとするようになっていったと考える。また、活動に対して各自の『めあて』をもたせたことにより、それらを達成しようと表現を使っていくうちに、自分の言いたい表現に慣れていったという効果もあった。

しかし、動作絵カードをやりとりする際、活動に飽きてしまう児童の様子も見られた。これは、カードを集めることに終始してしまい、単なる言葉の繰り返しになり、活動に対する興味・関心が薄れてしまったためであると考えられる。

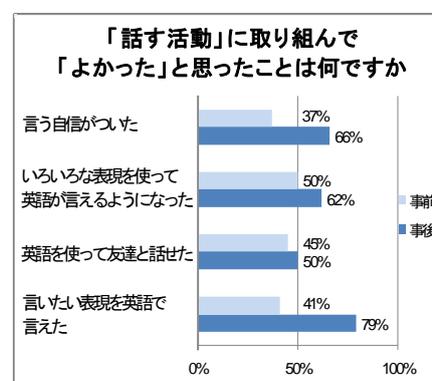


図11 アンケート結果

今日、おみせさんを聞いて友達の言いたいこともよく聞いて取り組みました。自分から進んでほしいのかをききました。

図12 抽出児童Aの感想

いろいろな動作の言い方がよくなって楽しかった。また、友達の言い方がよくなって英語でものを言うことがたのしくなりました!

図13 抽出児童Bの感想

今まで、英語は、あまり得意ではなかったけど、楽しく英語を覚えていけたので、だんだん、好きになって英語を言うことに自信を持ってました。

はずかしがらずに言えるようになった

英語で話す自信ができた。自分から進んで、英語が話せるようになった

図14 児童の感想

### 3 言い慣れた英語を選んで使い、互いを認め合いながら思いを伝え合う「わくわく聞いてTRY！」活動③の有効性について

#### (1) 結果

第5時は、自分の思いを発表する活動として、これまでの活動を通して言い慣れた英語を選び、自分の言いたいことを伝える『自分の一日を発表しよう！』を行った。4人のグループの中で自分の一日の生活を発表し、お互いにメッセージカードに感想を書き、交換し合った。



図15 抽出児童Bの一日の生活表



図16 抽出児童Bが友達からもらったメッセージカード

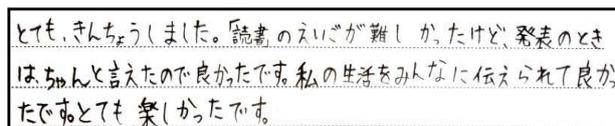


図17 抽出児童Bの発表後の感想

抽出児童Bは、発表の際、緊張をしている様子であったが、一つ一つの表現を確認するようにゆっくりと言っていた。また、「聞く人の方を見る」「説明する部分を指で差す」など相手を意識しながら、一日の生活表(図15)をもとに自分の一日を発表した。発表後、友達からメッセージカード(図16)をもらった時は、友達が発表を聞いて言葉をかけてくれた喜びで、嬉しそうな表情を見せていた。発表後の感想(図17)や振り返りカードの感想(図18)から、友達がどんな生活をしているのかを知ることができた喜びや、さらに英語を使って友達とかかわってみたいという思いをもつことができた。また、抽出児童Aの振り返りカード(図19)から、発表活動を通し「英語で自分の一日の生活を紹介できた」という達成感や「もっと自分のことを伝えたい」という意欲が感じられた。さらに、「友達がしっかりと自分の発表を聞いてくれて嬉しかった」「大きな声で発表できたねと友達が言ってくれた」など、自分の発表を友達が聞いてくれた嬉しさや認めてもらった喜びを振り返りカードに記述した児童もいた。

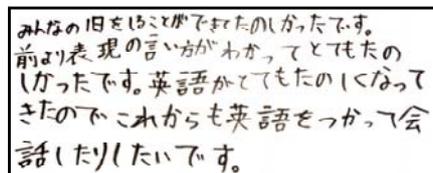


図18 抽出児童Bの感想

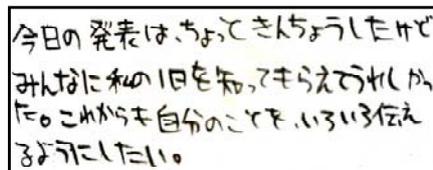


図19 抽出児童Aの感想

次に、協力学習を中心とした交流活動として、児童同士の理解をより深める『だれの一日のことを言っているのかな?クイズ』を行った。ある児童の一日をALTが紹介し、グループで相談しながら、だれの日であるか予想した。児童は、baseball や tennis など、その子と特定できそうな表現を聞き取り、お互いに知っている情報を出し合いながら、協力して予想をしていた。友達に関する情報を交換し合う中で、互いの考えを認めたり、励まし合ったりしながら、予想をまとめていく姿が見られた。また、予想した答えが合っていると、グループ全員で喜び合う様子も見られた。活動後の振り返りカードに「～さんがテニスをしているなんて初めて知った」「～君は、たくさん勉強してすごいと思った」などの感想を書いた児童もおり、この活動を通して、友達について新しい情報を得た児童もいた。

#### (2) 考察

「発表活動」「交流活動」に関するアンケート調査の結果から、「言いたいことが伝わった」と答えた児童が83%いた(図20)。これは、自分の言いたい表現を使って自分の思いを伝える発表活

動を取り入れたことにより、英語で思いを伝えることへの喜びを感じることができたからであると考え。また、「友達が聞いてくれた」と答えた児童が54%いた。これは、自分の発表を友達が聞いてくれた喜びや、発表後に友達からもらったメッセージカードを通じ、友達から認められたという自己肯定感を得ることができたからであると考え。さらに、「友達のことを知ることができた」と答えた児童が75%いた。これは、発表活動後に協力学習を中心とした交流活動を取り入れたことにより、相手の新しい一面を知ることができ、相手に関する関心を高め、進んで人とかかわろうとしたからであると考え。

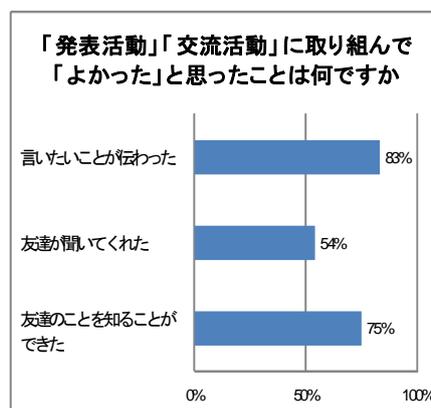


図20 アンケート結果

また、相手を認める言葉掛けがあると、自信をもって伝えることができるという結果が得られたことから、児童同士が認め合い、言葉やその他の手段を使って思いを伝え合う活動を取り入れていく必要があることが分かった。このように、他の児童に認められる喜びを感じることが、慣れ親しんだ英語を使って自分の思いを伝える自信となり、進んで人とかかわろうとするようになるであろうと考える。

## Ⅶ 研究のまとめ

### 1 成果

- 「わくわく聞いてTRY！」活動をそれぞれの過程に段階的に取り入れたことにより、「分かった」「伝わった」「聞いてくれた」という自己肯定感を蓄積し、活動への意欲を高めながら、英語を使って人とかかわることへの喜びや自信をもつことができた。その結果、進んで相手の言うことを聞いて理解しようとしたり、自分の言いたいことを伝えようとしたりしながら、積極的に活動に参加することができた。
- 「わくわく聞いてTRY！」活動を通し、ゲームや発表活動などで英語を使って楽しく友達とかかわり合うことにより、「友達の新しい一面を知る」「友達のことをさらに知りたい」と相手に対する関心を高めることにつながり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度をはぐくむことができた。

### 2 課題

- 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度をはぐくむためには、単なる言葉の繰り返しによるやりとりではなく、短い言葉でも自分の言葉で伝えられるような活動を体験していくことが必要である。そのためには、児童の実態や興味・関心に合わせ、英語の表現を使う必然性のある内容を考えていく必要がある。
- 慣れ親しんだ英語を使って、楽しくコミュニケーションを図ろうとするためには、一連のねらいをもつ活動を段階的に取り入れていくときに、児童の取組の様子を見ながら、前に戻ったり、繰り返したりしていくことも必要である。

### <参考文献>

- ・岡 秀夫、金森 強 編著 『小学校英語教育の進め方』 成美堂 (2007)
- ・直山 木綿子 編著 『小学校新学習指導要領の授業 外国語活動 実践事例集』 小学館 (2009)
- ・小泉 清裕 著 『子どもと親と先生に伝えたい 現場発！小学校英語』 文溪堂 (2009)
- ・菅 正隆 編著 『誰でもできる「英語ノート」でらくらく授業 6年生用』 ぎょうせい (2010)